

## 復興の町 「つなごう・つながろう 浪江！」



明治22年、町村制施行が施行され、浪江村が誕生。昭和28年、町村合併促進法により、浪江町は請戸村・幾世橋村と合併し、次いで昭和31年大堀村・苅野村・津島村と合併、現在の浪江町が誕生しました。

H23年3月の東日本大震災により、震度6強の揺れを観測したほか15mを超える津波により、約6km<sup>2</sup>が浸水し、651戸が全壊、死者182名（うち行方不明31名）の甚大な被害を受けた。

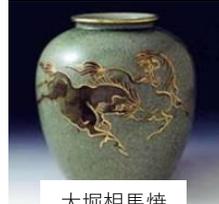
福島第一原発より北方約4kmに位置することから、東日本大震災に起因する原発事故により全町民（当時約21,500人）の避難を余儀なくされた。H29年3月31日より、沿岸部の一部地域での避難指示が解除されたものの、H30年10月現在で853名のみが帰還に留まる。復興計画（二次）をもとに震災前と全く同じ町でなくとも、苦難から立ち上がった町民の方々が笑顔で生活している町を目指して、復興を進めています。



相馬野馬追



なみえ十日市祭



大堀相馬焼

## 福島イノベーション・コースト構想促進事業

2018年秋より(株)舞台ファームと連携し、活動を開始。10月、地域創成学科の学生が稲刈りやワークショップを開催、11月、復興支援特別セミナーを東京農大3キャンパスで開催。今後も新たな事業を計画中。



稲刈りイベント参加の様子

- 人口： 17,613人（6,880世帯世帯） 居住人口873人（H30年12月現在）
- 面積： 223.1km<sup>2</sup>
- 町長： 吉田 数博（よしだかずひろ）
- 主産業： 農業、漁業、林業、製造業、卸売業、小売業など
- 交通： 東京より常磐自動車道浪江IC（約4時間半程度）

## 東京農業大学との関係

- H23年3月の東日本大震災により、震度6強の揺れを観測したほか15mを超える津波により、約6km<sup>2</sup>が浸水し、651戸が全壊、死者182名（うち行方不明31名）の甚大な被害を受けた。
- 福島第一原発より北方約4kmに位置することから、東日本大震災に起因する原発事故により全町民（当時約21,500人）の避難を余儀なくされた。H29年3月31日より、沿岸部の一部地域での避難指示が解除されたものの、H30年10月現在で853名のみが帰還に留まる。
- 避難指示解除地区においては、約1,500ha（水田約1,000ha、畑地約500ha）の農業復興を推進するため、13地区にて復興組合を設立し農地の保全活動（草刈り）などを実施。H32年にはこれらの保全活動への助成金が終了することから、「営農再開ビジョン」の策定を急いでいる。現時点で水田としては、約6haのみが復旧したに留まる。
- 生物産業各部と連携協定を結ぶ（株）舞台ファームが浪江町と連携し、農業の「新興」に取り組んでいることから、「農業課題解決のため当学知見を活用したい」との要請を受け、連携協定締結を前提とし各種取組みを検討している。

## 東京農業大学出身者

- ・岸 眞【双葉地方森林組合副組合長理事（元双葉中学校校長）S34年経済学科卒】
- ・吉田 公明【浪江町役場 S54年農学科卒】・鈴木 耕拓【浪江町役場H27年醸造学科卒】
- ・吉田 洋一【JA福島経済連S57年経済学科卒】・天野昇【JA南双葉S61年経済学科卒】

## 今後の交流の可能性

- 東日本大震災からの復興に向けての連携
  - ・被災地域の農業法人による6次産業化支援や経営アドバイス
  - ・津波復旧田の営農指導
- 交流事業推進に関する連携
  - ・東京農大教員及び学生と青年層を中心とした農家との情報交換
  - ・学生インターンの実施

◆東京農業大学の窓口教員 <福島イノベーション・コースト構想事業実行委員会>  
 総合研究所 山本祐司所長、自然資源経営学科 黒瀧秀久教授  
 地域創生科学科 入江彰昭准教授、国際バイオビジネス学科 井形雅代准教授  
 農学科 高畑健准教授、自然資源経営学科 菅原優准教授

◆浪江町の担当窓口  
 浪江町役場 農林水産課 課長代理 大浦龍爾  
 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2  
 TEL: 0240-34-0245 FAX: 0240-34-2135  
 E-mail: ourar@town.namie.lg.jp